

常陸大宮市教育委員会 11月定例会議事録

- 1 会議の名称 常陸大宮市教育委員会 11月定例会
- 2 開催日 令和6年11月25日（月）午前10時00分から
午前11時40分まで
- 3 開催場所 常陸大宮市役所 行政委員会室
- 4 出席者
 - (1) 教育長 小野 司寿男
教育長職務代理者 宮田 則子
委員 橋本 勇夫
委員 宮本 亜希子
委員 菊池 久義
 - (2) 事務局及び説明者
教育部長 木村 隆弘
学校教育課長 小泉 博美
生涯学習課長 小室 修
文化スポーツ課長 掛札 拓也
指導室長 関 好美
学校教育課課長補佐 青山 正樹
学校教育課主幹 梶山 明日香
- 5 報告
報告第24号 教育長報告について
報告第25号 指定学校の変更許可について
- 6 議案
議案第39号 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和5年度事業分）について
- 7 協議
協議事項4 令和6年度常陸大宮市教育振興大会表彰基準（案）について
- 8 その他
 - (1) 各課及び教育委員の行事予定について
 - (2) 教育委員会所管事務契約案件報告について
 - (3) その他

9 次回の定例会日程について

10 閉 会

11 傍聴人の人数 3人

12 会議の概要

小野教育長 本日の会議に3人の傍聴希望者がおりますので、報告いたします。

傍聴人の方は、注意事項を守って傍聴をお願いいたします。

本日の出席委員は全員です。

ただいまより、常陸大宮市教育委員会11月定例会を開会いたします。

(午前10時00分開会)

小野教育長 本日の議事録署名人の指名を行います。

議事録署名人に橋本勇夫委員を指名いたします。

本日の会議日程はお配りした会議資料のとおりです。

それでは議事に入ります。

はじめに、「日程2 報告」を議題といたします。

報告第24号 教育長報告となりますので、私の方から報告いたします。

本日の議題にも入ってくるものなのですが、10月30日に第2回の点検評価委員会が行われました。後ほど議題の方で内容について説明があります。

11月2日に北小祭が行われまして、その中で子ども歌舞伎が上演されました。何年か続けて見に行っているんですけども、毎年なぜかこの日は雨が降る日で、大宮北小学校の体育館はものすごく雨音が響くんですね。でも、それに負けないぐらい見栄を切る子供たちの声が非常に素晴らしいものでした。

11月7日には、美和の養浩園、文化財として国から指定されておりますけれども、プレートが文化庁の方から送られておりまして、その除幕式がございました。それに合わせて美和小学校と明峰中学校で、京都からいらした庭師さんの指導でホウキ作りを学んだようです。非常にたくさんホウキができたって

ということで、後ほど市の広報紙の方で広報されるということでした。

続きまして、11月8日に全日本オーガニック給食フォーラムが大変盛会に開催されまして、たくさんの方がいらっしゃいました。

11月9日、10日、文化スポーツ課の方で大変でしたけれども、常陸大宮市内の集中曝涼が行われました。

11月14日、15日は人事が開始ということで、学校長と教育長、教育委員会事務局の人事面接がスタートいたしました。人事が始まっております。

そして11月15日ですが、筑西市議会から小倉ひと美副議長と水柿美幸議員が、教育委員会の主に教科書の単独採択についての話を聞きたいということでいらっしゃいまして、議会事務局と教育委員会事務局で1時間半ぐらい対応をいたしました。

11月20日、後ほどあるかと思うんですけれども、太田税務署の方の税の作文、それから標語その他の表彰式がありまして、今回、常陸大宮市の中学生と小学生が非常によく頑張りまして、表彰者の半分ぐらいを常陸大宮市が占めまして、たまたま事務局の係をやったものですから、非常にいい気持ちで座っておりました。

それから21日には教育支援委員会が第3回目ということで行われました。10月の2回目に約170名の児童生徒について協議をしていただいたんですが、今回は各幼稚園、保育園、保育所、認定こども園、それからこどもセンター、総合福祉センターかがやきから報告された、来年度の小学校入学予定の15名、それから再調査児童が10名おりましたので、その25名について協議をしていただきました。

それから22日、過日ですが、後期の学校訪問、大変お世話になりました。

報告は以上です。ただいまの件について、質問があればお願いします。

宮本委員 集中曝涼なんですけど、私、甲神社の方でおりまして、何人か来ていただ

いた方と話をしたんですが、ボランティアさんがすごく頑張っていて、やっぱり曝涼に来る方ってそういうのが好きで、他の市町村であれば行って、常陸大宮市も来たっていう感じでお話を聞いたのですが、常陸大宮市はボランティアの方がよく説明してくれたり、頑張っていますねってということでお話をいただきました。文化スポーツ課の方もすごく丁寧に扱っていただいて、最初から最後までよくやっていただいて、ありがとうございました。

小野教育長 ありがとうございました。実は、今年は中学生のボランティアも活用したいなと思ひまして、ちょっと早めに募集をかけたんですけれども。中学生も歴史の好きな子もいますし、それから水戸の偕楽園のように、中学生にたくさん観光客を案内するボランティアをしてもらっていて、かなり成功を収めている例もあるのでやってみたかったんですが、ちょっと今回は、中学生は忙しいという返事がほとんどで、すみませんでしたという感じなのですが、もう少し前もっていろんな研修とかを計画しながら、当日2日間できる子が常陸大宮市に来てくださる人たちに説明ができるようなものをやってみたいなと考えております。

他に質問が無いようですので、次に移ります。

ここで皆様にお諮りいたします。

この後の「報告第25号」につきましては、個人情報に関する内容が含まれております。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第14条第7項の同項のただし書きの規定により、人事に関する事件その他の事件について教育長または委員の発議により、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは、会議を公開しないことになっています。

つきましては、個人情報保護の観点から、会議を非公開にしたいと思いますが、賛成の委員の挙手を求めます。

(委員全員 挙手)

全員一致ですので、報告第25号につきましては、非公開といたします。

傍聴人の方は、退席いただきますようお願いいたします。

それでは、会議日程に戻ります。

報告第25号 指定学校の変更許可について 事務局の説明をお願いいたします。

小泉学校教育課長 【報告第25号について説明】

小野教育長 説明が終わりました。質問があればお願いします。

よろしいでしょうか。無いようですので、次に移ります。

ここで傍聴人に入室していただきます。

傍聴人の皆様、ご協力ありがとうございました。

報告は以上になります。

続きまして、「日程3 議案」に入ります。

議案第39号 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和5年度事業分）について を議題とします。事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 【議案第39号について提案・説明】

小野教育長 説明が終わりました。質問があればお願いします。

各事業とも拡充とか現行通りという評価の方で、見直しや縮小や廃止・休止といった評価はなかったってことですよね。

小泉学校教育課長 はい。

小野教育長 令和5年度の点検評価は、今日の教育委員会の報告で完了ということで、来年度は令和6年度分の事業について点検評価を行っていくと。

小泉学校教育課長 そうですね。今回こちらの報告書につきましては、繰り返しになりますが、12月の市議会に提出するとともに、市のホームページで公表し

て、それで終了という形になります。

小野教育長 宮田委員どうぞ。

宮田委員 個別事業の中で4番のブックスタート事業。これ素晴らしいと思うんですよね、9か月のお子さんに対するブックスタートパック。パックの形で統一されたものを配布してっていうことで事業の概要が書いてありますが、その中でブックスタートボランティアの方がお子さんに対して触れ合うことがあると思うんですが、市内にいるブックスタートボランティアっていうのは何名くらい分かかりますか。

小室生涯学習課長 ボランティアの人数までは、手持ちに資料が無くすみません。

宮田委員 何人かの方がボランティアとして指定されてるわけですね。そうしますと、一般的なボランティア協会に入っているとかではなくて、例えば図書館事業の中の一環とか、そういうところでおやりになってるのかな。

小室生涯学習課長 そうですね。読み聞かせのボランティアの方とかが、かがやきでやっている9ヶ月検診の時に行って、お子さんに対して読み聞かせをやっています。

宮田委員 そうすると、市の読み聞かせグループがありますので、これは図書館を中心にしてやっている活動が多いと思うんですね。わかりました。ありがとうございました。

小野教育長 協力したりとか、なんかを作っているわけじゃないんですね。その時にボランティアとして、やっていただける人をお願いするとか。

小室生涯学習課長 いると思います。

小野教育長 登録はすると。

小室生涯学習課長 はい。読み聞かせのグループ中と。

小野教育長 なるほど。後ほどもし人数とか内容とか、そういったものがあればご確認いただけることでよろしく申し上げます。他に申し上げます。

宮本委員　質問ではないのですが、事業がいろいろ並んでいて、さっき話に出たブックスタート事業は、うちの子たちの時もあったんですが、その時はバックに本を入れていただいて、1度読み聞かせを親子で聞いてっていう感じで終わったんですが、今回見ると、ボランティアの方が保護者の方にお話しされているということで、だいぶ内容が充実してきたんだなっていうのを感じましたし、2番のひたまる読書活動推進事業は、ここ2年か3年、子供たちが自分が気に入った本を読んでポップを作って、みんなにいいよって勧めるのを小学校でやって、選ばれたのが市役所に飾られるっていうのをやっていますけれど、今の子どもたちって本を読まないの、1冊でも読み込むことができる本があるとすごくいいのかなということで、こういった事業が、そのまま続けてほしいということで出ているのはすごくいいなと思いました。

ただ、3番の花いっぱい運動推進事業なんですけど、今子供会が無くなってきていて、昔は子供会活動の中に花壇づくりっていうのがあったんですが、子供会が減っていくっていうと、花壇を作らなくなってくる、空き花壇が増えてくるということで、申請をしてくれる団体を増やすにはっていう意見があったので、花って見ているとすごく綺麗だなと思うんですけど、まだやってない団体でやってくれるところを探す何かがあればいいなと感じました。

小野教育長　橋本委員どうですか。花壇の方を一生懸命やっていますけれども。

橋本委員　そうなんです。花壇の方、宮田委員のところで昨日、片付けがあったんですよ。八里小学校の花壇で、あそこにグランドゴルフで集まってくる方からも大変好評で、面積も大変広くやってるんですよ。その他の場所でも、道路の路肩を活用してるところ、あと集会所あたりもあるんですけど、この形になってから2年だと思うんです。それまでは苗を用意してくれたりとか、方法がちょっと違ったものですから、苗から肥料から管理を全てやってくださ

い、その代わりお金をお支払いしますって形になって、2年が終了したんですね。まず苗を手に入れるにも、長い期間持つような苗っていうのは、ホームセンターで売っているものでは種類の難しい面があるんですよ。例えばサルビアですと、売っているものでは夏前ぐらいに終わってしまう。種類とか育て方が違いますので、苗の確保と。それから場所も路肩によっては深くて花壇のようになったり、土の条件が良い場所と悪い場所があるものですから。この夏場の高温、しかも雨が少ないところで路肩の花壇は水かけというところで、大変他のところでも困っていました。

あと、それを運営する人材の方も、以前ですと各地区の高齢者クラブとか子供会とかで取り組んでくれていたんですが、今高齢化が進んできて切り替えがなかなかできない状態であるんですよ。常陸大宮市内でも大変綺麗にやっている場所と、以前やっていたんだけど今は草だらけで、なかなか草刈りもできない状態になっているところもあるんです。環境美化からも拡充をするためにも参加団体を増やすということになると、この3つを少しずつ改善していかないと、増える可能性は少ないのかなという気がしました。

宮田委員 それに関して付け加えてというか、私が見てる範囲での花いっぱい運動なのですが、緒川地域に関しましては、高齢者クラブが各地区の花壇を持っている、管理していることが非常に多くて、地域で高齢者クラブの代表の方を集めて種まき指導をしたり、あるいは種まきができない場合には苗の形で配布しますよとか、そういうのをかなりやっていたんですね。どの地区も知事賞とったとか過去の実績がありますので、花壇にそういう看板が出ているとか、各地区とてもよくやっていたんですが、コロナでコミュニケーションを取るようなことができない3、4年がありまして、昨年復活したような形なんですけど、高齢者クラブが管理していた地区の方が多かったんで、高齢化でもうできなくなってしまったっていうことで、今現在は歩いてみると、かつて知事賞をとった

ような素晴らしい花壇も持続されてないところが出てきてしまっているんですね。今は全部申請方式で、うちの地域では、これだけの面積を持っていますっていう申請に対しての補助があるので、だんだん申請しないと。全体的な指導をしてませんので、緒川地区に関してはそういうことがみられました。

ただ、橋本委員から先ほどあった旧八里小学校の花壇に関しては、高齢者クラブっていうよりも、八里花の会っていうのを作りまして、地域の方々、それから退職公務員のメンバーでやっています。グランドゴルフをする方、そして地域の方も八里花の会のメンバーになっていますので、その人たちとやっていると、遊びに来た中学生とか小学生も一緒に参加してくれて、良いコミュニケーションだなんて思っていたんですが、これがコロナで、ちょっとダウンしてしまっただけですね。コロナの前は、地域の方々が昔から学校っていうことで集まってくる場所でしたので、杖をついてでも除草作業なんか手伝ってくれるっていう状況がありました。地域住民のコミュニケーション取れる機会や場所が最近少なくなってきたので、これは大いに効果があるかなと感じています。うちの方も復活してみようかっていう地区も、今年度など聞かれましたので、ますます拡充の方向で花いっぱい運動が広がることを望んでいます。

小野教育長 ありがとうございました。他にございますか。

橋本委員 拡充するためにも、高齢者クラブの会員にちょっと早めに声をかけるとか。美和地区の高齢者クラブはだいぶ増えているっていうか、維持してるっていうか。特に1番目立つのは、道の駅北斗星のちょっと北側に行った右側の花壇で、毎年綺麗にサルビアが咲いていると思うんです。あそこは高齢者が切り替え、ちょうど若返った地区なんです。上手にあれをやらなきゃならないっていうので、高齢者クラブも切り替えてやるぐらいの大切なものだったんですけど、あの苗については種から育ててくれる方に全部、どこの地区は何ケース必要かっていうのを申し込みしてもらって、それを全部まとめて購入してやって

います。ただサルビアだとちょっと水不足で枯れてしまったのが。去年ひどかったものですから、苗を変えたところなんかありましたね。そうすると、多少工夫もできるんだと思うんですけども、その辺りの手立てを考えると拡充に繋がるのかなっていう気がしていました。

宮本委員　橋本委員の話を聞いて思いついたんですけど、花いっぱい運動って助成金がもらえるっていうことで、子供会の総会の時だと思うんですけど、やり方というか案内がもらえると思うんですが、実際私2年ぐらい花壇をやったんですけど、花はそんなに好きでもないし、何を植えたらいいいんだろうみたいな感じで、正直ただ植えたっていう感じだったんですが、今みたいに、サルビアはすごく綺麗だし、何月ぐらいに植えるといいよとか、この地区はこういうやり方でやっていますっていう、お手本になるようなところとか、こういう花だと植えやすいとか、水やりがあんまり要りませんよっていうのが書いてあると、取り組みやすいかなって思いました。

小室生涯学習課長　花いっぱい運動につきましては、合併から令和3年度までは、合併以前のやり方で各地域で、教育委員さんからお話あったように、市で購入した花苗を各団体でお分けするような地域もありましたし、団体が買ってきた苗のお金を市の方で店に支払うというような方法と、まちまちでしたので、令和4年度に面積に応じて謝金を支払うっていう方法に変えてきたところです。今年度からプランターも対象にするということで、少しでも多く地域のコミュニティ、また市民の方の生きがい作りになるようにということで取り組んでいるところです。お話あったように、広報の方もいろいろ団体へ声をかけて、少しでも増えるように、花壇が荒廃しないよう、やっていければと思います。

小野教育長　他にありませんか。無いようですので採決に移ります。

議案第39号につきましては、原案のとおり可決することよろしいでしょうか。

各委員 〈異議なし〉

小野教育長 異議なしと認め、議案第39号につきましては、原案のとおり可決といたします。

以上で、議案が終了しました。

続きまして、「日程4 協議」に移ります。

協議事項4 令和6年度常陸大宮市教育振興大会表彰基準（案）について
を議題とします。事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 【協議事項4について説明】

小野教育長 協議事項について説明が終わりました。ご意見・質問等をお願いします。

宮本委員 実力テストの総合得点ということなんですけれど、小学校は実力テストが無いと思うんですが、漢字力テストとか計算力テストっていう考え方でいいですか。

小野教育長 いろんなテストが、全国学力・学習状況調査は最高学年だけですけども、その他にも県で行うものとか、そういったものでデータとして扱えるものがいくつかあるので、その中のものを活用したいと思っています。

菊池委員 具体的に実力テストが何なのかってのはここでは明記しないで、実力テストということで。

小野教育長 本来なら常陸大宮市が独自でやるものがあれば1番いいんですけども、それがなかなかいろんな負担があると同時に、これまでやったこともあったんですけども、実際なかなかできるものではないんですよ、正直。いろんなデータが県とか国の方にありますので、それを使わせてもらいたいと考えています。

菊池委員 全部の小学校・中学校で共通のものでなくてはダメですもんね。

小野教育長 そうですね。順位をつけるわけではないので、1番勉強の中で試験に

なるんでしょうけれども、その中で得点を取ったというもの。ですから、1位とか2位とか3位ってものではない。ただ、いろいろと課題とか、これまでの学校教育の中では相当問題視されていた部分もありますので。

橋本委員　学習面でっていうことで、一長一短あるかとは思いますが、この教育振興大会の大きな目的としては、子供たちの頑張った力を称賛しようっていうことからこういった表彰もされてきた。その中に、スポーツ面でも審査の対象として、県のベスト8っていうとどうなんだって、人数とかいろんな関係で出はするんですけれども、基本的に称賛してあげよう、頑張りを認めてあげようっていうことで進めてこられたものだなと思っているんです。この中でもスポーツテスト的なものも茨城県は特に力を入れてやっていますので、こういう形で表彰を昨年されて大変喜んでいる子の様子を見せてもらいました。ですから、学習面においても、このテストで競争とかそんなのじゃなくて、頑張りましたねっていう、そういう目的でさらっと表彰してあげる、認めてあげるっていうことは、なんたら悪いことでは無いんじゃないかなって思ってます。

菊池委員　私も具体的に言うとあれですけど、美和中学校と山方中学校にいた時に、学期に1回かな、学年でかな、努力賞だとか優秀賞だとか、校内での表彰といったものは行ってきました。どうですか。大宮中学校なんかやったりしているのかな。

宮本委員　今はやってないです。

菊池委員　今はやってないですか。今現在、どの学校でやってるかどうかってのは分からない状況ですけども、当時はやって、賞賛といった形で。ただ、それによって校内における人間関係であったりってのはなかったかな。校内で回数も多いですしね、学期ごとにやったと思いました。各学期にやって、賞賛して拍手を送ったりと。これが市となるとどうなるか、しかも1名といったことなので、この辺の人数が1名という経緯がはっきりしたものがあるならば、そう

したところもちよっと聞かせてもらいたいなと思います。

小野教育長　　これまで、なかなかこういったものは無かったところの方が多いと思います。基本的に学力向上っていうものを目指したとなると、学力ってなんだっていうことに必ずなってきますけれども、当然見えるものと見えないものがあるって、点数至上主義なんて必ずそこに行きます。我々教員の世界、何十年も昔からそう言われ、何ひとつ変わったものはない。それと同時に、一生懸命頑張って、例えばこの体力テストにしても、スポーツにしても、いわゆる競技としてあって1位とったことに対して、それは素晴らしかったね、努力したねっていうことを評価する。学習の努力って何なんだって話になると、もうそこでこういったものは一切成り立たなくなってくると思います。けれども、同じテストをやって1番点を取ったからよく頑張ったねと、1位だっていう意味ではなくて、順位になると必ず問題になりますので、一番できた、頑張ったということで表彰すると。本来であれば、来年これにプラスアルファして、一番去年よりも頑張ったねと、要するに前回のデータよりもずっと伸びた子を表彰してあげたいなと私は個人的には思うんですけども。今年はそこまで含めたらどうかっていう話もあったんですけども、実際に4、5、6、1、2年となると、それができるのは5年と6年、そして2年だけになっちゃうんですね。中学校で1教科増えて、小学校6年生と中学校1年生は比較できないので。それは英語をとって比較すればいいかっていう話も出てくるんですけども。そういったことを考えた時に、そんなに理屈で騒ぐ前に、よく頑張ったねと、さっき橋本委員さんがおっしゃってくださった、よく頑張ったと、要するに胸を張ってくださいっていう、そういう意味の表彰でいいんじゃないかということ。ただ、やっぱりこれに対して難色を考える教育関係の方々が多いと思います。ただ、それがどういう形になってくるかってこと。実は校長会とだいたい詰めたんですけども、校長会でも話は出るんですが、かと言ってクリアに、だからダ

メでしょうっていうことはなかなか出てこないという状況でございます。教育委員会の方に委ねるということだったものですから今日いたしました。

菊池委員　　こうして表彰することで、表彰を受けた児童生徒が、よし、さらにまた頑張るぞというような契機となる、あるいは身近で、あるいは他の学校の誰さんがなった、次はなれるように自分も頑張ろうかと、そうした学習意欲であったり好奇心を高めるといった面で、この賞賛っていうのは意味があると感じますが、1名と言うと、また来年も同じ、次も同じっていうことにならないのかなという心配っていうか思いを持ってしまうところがあるんですね。頑張って名前が入った、それが各学校に広がっていくというようなこと。教育振興大会の表彰といったものの、子供たちの意欲の広がり・高まりへの影響を考えて、人数的に1名よりも、もうちょっと称賛する数を増やしてもどうなのかなと思うんですけれども、その辺りの難しさもまたどこかにあるのか。私の考えが及ばないところもあるのかなっていうところで、1名といったところをお聞きしたところです。

小野教育長　　一応、学年っていうものを考えました。4年生から6年生までと中学校の1、2年生、全部で5、6人の表彰になるんですけれども、現場の校長先生方の意見を聞くと、まず1番多かったのは、表彰されることによって、その子がいじめられるのではないかと、それがプレッシャーになって自分が生き生きと活動できなくなる可能性があるのではないかっていう、非常に先に先にいってそれを心配するスタイルの方たちだったんです。校長先生方1人1人と全部話はできなかったんですけれども、その意見に対してお答えしたんですけれども、文章を書いて。例えばいじめられるのではないかっていうのは、じゃあいじめの方が悪いのではないですかと。そしたら、そういったいじめを起こしてる学校は何をすればいいんでしょうっていう問題だと思うんですね。こういうことが起きるから無しにしましょう。やっぱり我々いろんなものを心配する

んですけれども、今までなかった理由ってのがあるのかもしれないけれど、それをやらなかったっていうことは、やったらどうなるかってことも知らないわけですよ。分からないわけです。当然本人と保護者には確認を取って表彰しますが、それを受けるか受けないかと、いやいや、そんなものはとても嫌ですよっていうのは、それはもちろん表彰しませんし、そういったものを前提にやってみるっていうことは、実際にそんなに悪いことじゃないとは思うんですけれども。もしかすると、4、5、6、中1、2年まで全部同じ人がずっとなることもあるかもしれませんね。

橋本委員　そうならない頑張りっていうか、やはり上位は上位の子でそのようなところっていうのは見えますよね。

小野教育長　ただ、そこに付随してくるのは、過度な競争を煽るだけということになってくるわけです。でも入試って競争じゃないんですかと思うんですね。それどうやって説明をしてるのかなと。それはしょうがない、確かに。

宮本委員　確かこの話題、去年も出たかと思うんですが、知っている子に「もしすごくテストが出来て、学校で1番出来て、みんなの前で表彰されるとしたらどう」って何人かに聞いたんですけれど、素直に「もらいたい」って言った子はいませんでした。ただ橋本委員のおっしゃった通りで、頑張った子はすごいねって表彰してあげたい気持ちもあるんですが、やっぱり受ける方の子も、いろいろな気持ちがあって、受けたって素直に思う子もいるでしょうけれど、受けたくない、その理由はその子にしか分からないことだと思うので、この項目は、例えば設けて、あとは、みんなの前で表彰を受けたいのか。みんなの前で受けたくないのであれば、校長室で校長先生から直接もらうんだったらもらいたいっていう子も中にはいました。それは、みんなの前に触れることにはならないですけれど、その子の自信にはなると思うんですね。なので、項目は設けて、受ける受けないはその子に判断してもらってもいいのかなという風には思

いました。

宮田委員 目的は結局、学習意欲を高めること。児童生徒の表彰を受けたくないという気持ちも大切なことだけれど、なぜ受けたくないのか。それから先ほど菊池委員がおっしゃったように、表彰を受けた子がいじめにあう可能性っていうことも、過去の学校生活を自分自身が振り返ってみても、なかなか理解しがたい面があります。以前でしたら、中学校は期末テスト、それから中間テストをやって、今みたいにデータ化される点数は少なかったですけど、それぞれの校内では努力賞として、平均点が何点上がった子とか。学力ってどこから見るかっていうと、ペーパーテストの学力だけじゃなくて、いろんな学力があると思うので、それを会議にかけていくと思うんですね。だからここも同じだと思うんです。全体の学習意欲を高めるとか、あるいは学力向上に繋げるとか、そのための表彰であると思いますので、表彰基準っていうのはあくまでも基準ですから、現実と合わせて協議していくっていうこともあると思うので、まずやってみないと予想していたことが的中する場合がありますし、外れる場合もある気がするんですよ。だから、競争の世界を煽るのではなくて、結局は1人1人の学力向上、そして集団の学力向上、そういうところに繋げていけるような表彰だと思うので、その子が浮き上がってしまう、それは雰囲気として集団の中で環境づくりを考えていかなきゃならない項目だと思うんですよ。

菊池委員 1人の表彰で浮き上がってしまうっていうのは、学校教育の中で大事な人間関係とか、教師の学級経営力であったり指導力であったり、そうした部分と大きく関わるわけですよ。ですから、浮き上がってしまうからやらないということじゃなくて、先ほど橋本委員が出たように、素直に称賛して、みんなで素直に喜び、そして今度は自分が上がっていけるように努力していこうっていう学校全体の雰囲気作りを教師たちが力を尽くすことの方が大事なのかなと思いますね。

橋本委員 同じようなんですけれど、スポーツ面でも努力してますよね。過度なっ
て言いますけど、過度すぎるほどにやっぱり1人1人は努力しています。だから
それだけの能力もついてくるんでしょうし、力もついてくるんだと思うんで
す。これは学習面でも、環境的になかなか表に努力の様子も見づらいところは
あると思うんです。でも、皆さん切磋琢磨しようとしていますから、そういう
点では、文化面にしてもスポーツ面でも学習面にしても、同じステップの中
で進めてもらってもいいような気がしてるんですよ。

小野教育長 校長先生方からの意見で1番私が感じたのは、ただ単に称賛をするっ
ていう話とは違って、順位付けとか序列をつけることを極端に怖がると。もち
ろんそんなことはなくていいと思うんです。1番と2番が出るわけではない
んですから。だけれども、そのところとの切り離しがうまくいかない。学校
教育って大変ですから当然だと思います、その辺が出てくるのは。でも、本当
に正しいことって、一生懸命に頑張って点を取った子供がいた、よし、よくや
ったな、たいしたもんだねって、たいしたもんだってということ自体が、多分あ
る研究をする人からすれば間違った言葉なんだろうけれども、そんなことば
かりいつもの繰り返しでいたら何も変わらずに、結局人に隠れたまま1番点数
をとる。何点だからダメなんだっていう方もいらっしゃるわけです。でもそれ
しか公平な形として数として出すものはないので、そうなってくると、データ
があって、よく頑張ったねって褒めること自体は、決してダメだってことでは
ないと思うんですね。ただし、何のためにやるんだって話になるんですよ、必
ずすぐに。それは褒めたいんだと言うんですが、じゃあ他にいつ褒めるの、そ
の子をと、そういうレベルの話。例えば順位が出るとか、そういうこともある
んですけれども、常陸大宮市というものが学力向上に取り組んで、その結果と
して頑張った子供がいて、これだけの点を取った人がいて、よく頑張ったね、
それだけの話なんだってことなんです、そこまでの切り替わりはやっぱりな

なかなか難しい。そこがやっぱり1つのハードルかなと思うんですけど。先ほど宮田委員がおっしゃったように、やってみればいいんじゃないか、試しにやってみると。ただし、リスクもあるんですよ。そこは学校が全力でとにかく取り組むべきもので、いじめだの、それから誹謗中傷だの、陰に隠れてコソコソやって、思春期だけど、そっちは正しいことじゃないんだよって伝えることだって、学校の仕事だと思うんです。だから、一石を投じてみたいと私は思ったので、校長先生方と相談してみたんですが、あまり石は帰ってこなかった。こうなる、そうだよなって説明してもらえる理屈が欲しかったんですけど。

昨年度の体力テスト、そのときに問題は特に何も無かったと認識してるんですが、そこで、どういう風に体力つけているのかって一言もらいましたよね、自分の話を。すごく面白いことを言ってくれたり。あれの勉強版ってなんでダメなんだと。

橋本委員 全然またステップが違うかもしれないですけど、よく家庭で保護者会があるってことで来られないと。子供に怒られるから行けないんだよってという言葉は聞くんですけど、でも行って子供たちの様子を見るっていうと、やっぱりその子供たちは嬉しいんですよ、来てもらったっていうことが。でも、直接そういう話になると、半分照れ隠しとかあるんでしょうけれども、思春期の子供たちの目からすると、そういう言葉になっています。この学習面でどうって言われた時に、してくれっていう子の方が少ないと思います、ひょっとしたら。でも、いざされるっていうことになると、大きな声で万歳でスポーツみたいにガッツポーズを上げてっていうような表現は少ないかもしれないですけど、心の中でやっぱりそれなりのものもあるんじゃないのかなっていう気がするんですよ。

小野教育長 ありがとうございます。

その他、何か別な観点とか、そういったものでご意見ございますか。

宮本委員　今後お知らせが出るかと思うんですけど、こういう基準に該当してる方はっていう。スポーツとか団体、例えば少年団に個別にお知らせを送ったりとかはするんですけど。

橋本委員　少年団から上がってくる資料で、今までの審査でもありましたよね、この少年団からこういう実績で上がってきていますっていうのが。あと学校からとか。だから、全部それなりに出していると思います。

小野教育長　それが時間のかかる場所なんですけれど。去年も覚えていらっしゃると思いますが。

橋本委員　特に少年団では空手と卓球あたりが出てくるところだったんですけど。

宮本委員　ありがとうございます。わかりました。

小野教育長　では、他についてご意見等ございますか。

（案）については皆さんの意見が同じようなので、まずその表彰に関しては本人と保護者の意見を必ず確認すると、そういったものを大前提として、今回こういうものを加えるということによろしいですか。

各委員　はい。

小野教育長　来年度に向けては、前年度の比較で伸びた子も表彰に加える、本来そっちをメインにしたいんですけども、そういった方向に行きたいということによろしいでしょうか。

各委員　はい。

小野教育長　では、本件については、今の条件を加えた案の通りということでお願いいたします。

続きまして、「日程5 その他」に移ります。

（1）各課及び教育委員の行事予定について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長　外　　**【行事予定説明】**

小泉学校教育課長　　**【教育委員の予定説明】**

小野教育長 ただいまの件について、質問があればお願いします。

宮本委員 定例会でお話を聞くことかなとも思うんですが、教育委員の先生方の意見を聞きたいなと思ひまして。毎月、定例会は25日ですよっていうお手紙をいただくんですけど、ここで日にちの確認もしているので、私は無くてもいいんじゃないかななんて思っているんですが、でも、先生方で来た方が安心するっていう方がいらっしゃったら、やっぱり送ってもらった方がいいかななんて思うんですが、先生方どうですか。

小泉学校教育課長 招集通知ですよ、毎月1日とか2日で、25日にありますよっていう。招集通知っていうんですけど、そちらは規則で決まっております。

宮本委員 そうなんですね。

小野教育長 招集しなければならないってものですね。

橋本委員 そう思うんですけどね。でも、ありがたいなと思っています。

宮田委員 ご丁寧にいただいているからね。

宮本委員 わかりました。

小野教育長 他にございますか。

無いですので、(2) 教育委員会所管事務契約案件報告について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長、掛札文化スポーツ課長 【契約案件説明】

小野教育長 ただ今の件について質問があればお願いいたします。

無いですので、(3) その他について 事務局又は委員の皆さまから何かありましたらお願いします。

学校教育課長お願いいたします。

小泉学校教育課長 【財産の取得関係の説明】

小野教育長 続きまして、文化スポーツ課長お願いいたします。

掛札文化スポーツ課長 【部活動地域移行関係の説明】

小野教育長 ありがとうございました。質問等ありましたらお願いいたします。

無いようですので、続きまして、「日程 6 次回の定例会日程について」 事務局からお願いします。

小泉学校教育課長 （1 2 月定例会について日程調整）

小野教育長 それでは、次回定例会は、令和 6 年 1 2 月 2 5 日 水曜日、午前 1 0 時より開催することにいたします。

以上をもちまして、常陸大宮市教育委員会 1 1 月定例会を閉会いたします。

（閉会：午前 1 1 時 4 0 分）